大会長賞候補演題 | On-demand Video | 大会長賞候補演題

[PA3]大会長賞候補演題3 (専攻医)

Thu. Jul 23, 2020 9:00 AM - 11:00 PM

※上記の時間内に、オンデマンド配信開始予定です。

[PA-22]Practice and ideals of medical attire in general practitioner - Comparison of each medical setting including the reasons for selection-

○吉川 由貴[1], 松久 貴晴[1], 高橋 徳幸[2], 伴 信太郎[3], 佐藤 寿一[1] (1.Department of General Medicine Fmily &Community Medicine Nagoya University Graduate School of Medicine, 2.Department of Education for Community-Oriented Medicine Nagoya University Graduate School of Medicine, 3.Medical Education Center Aichi Medical University School of Medicine)

【背景】診療時の医師の服装について、患者が受ける印象に関しては多くの研究があり、患者の多くが診療の場に関わらず白衣着用が望ましいと考えている。近年白衣を着用せず診療する医師が散見されるが、診療の場毎の診察衣の実状や選択理由についての医師側の調査は殆どみられない。
【目的】家庭医の診察衣と選択理由の全国的な実状に関する診療の場毎の調査
【研究デザイン】横断研究
【対象】2019年6月時点の日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医（以下家庭医）794人のうち、同学会メーリングリスト（以下 ML）への登録者
【介入】同学会 MLでの募集による Web入力式アンケート調査（名古屋大学倫理審査委員会承認番号2019-0057）
【主たるアウトカム指標】病院・診療所・在宅診療（病院系）・在宅診療（診療所系）の4つの診療場面での診察衣の割合（白衣、スクラブ、セミフォーマル、カジュアルから1項目）と選択理由の割合（勤務先規定、過去からの習慣、プロフェッショナル、共感性、清潔感、軽快さから1項目）、各診療の場での理想の診察衣とその理由の割合
【統計解析方法】 IBM SPSS Statistics 26を用いた l× m分割表の独立性の検定、残差分析に関する Pearsonのカイ２乗検定
【結果】全家庭医の19.3%（153名）から回答を得た。実際の診療時に白衣を選ぶ家庭医は病院では過半数(52%)を占め、理由は習慣とプロフェッショナルが多かった。非白衣を選択する家庭医が診療所(59 %)と在宅診療(病院系58%,診療所系71%)で多数を占めた。その中でもカジュアル選択が特に増加し共感性を重視していた。理想の服装は、病院では白衣が多く(54%)、主にプロフェッショナルを理由とした。診療所や在宅診療では病院に比し、白衣以外を選択する割合が増加した。
【結論】病院では実際及び理想の服装で白衣が最多であったが、診療所や在宅診療ではカジュアルが増加した。家庭医が診療の場毎に服装を選択していることが示唆された。

©Japan Primary Care Association